

授業科目名： ピアノ基礎Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 石川 美也子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 読譜力・演奏技術の基礎を習得し、音楽の知識を表現技術へ結びつけ、演奏に反映できる。			
授業の概要 練習曲を中心課題とし、ピアノを演奏する上で必要な技術の基礎力を強化し、表現基礎を高める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（概要・課題選曲） 第2回：手のフォーム・指の動作・身体の使い方（基礎） 第3回：楽曲分析 第4回：基礎技術Ⅰフレーズ 第5回：基礎技術Ⅱハーモニー 第6回：基礎技術Ⅲ声部 第7回：アーティキュレーションの表現方法、イントネーション 第8回：ハーモニー・フレーズの連携 第9回：テンポ・構成 第10回：バランス 第11回：表現Ⅰダイナミクス 第12回：表現Ⅱ音色 第13回：表現Ⅱ構成 第14回：仕上げ（客観性） 第15回：仕上げ 個々の技能や進度に合わせて、1~15回の内容を総合的に指導する。 実技試験 基礎・練習曲を課題とする。（グループ実施）			
テキスト ハノン（全音出版社・音楽之友社）ほか			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30%

定期試験レポート・・・10%

実技試験・・・60%

授業科目名：ピアノ基礎Ⅲ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：稲森 安太己 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 A水準（到達すれば「優」に相当） 1. ロマン派の楽曲について知り、作曲技法の違いや、表現の多様性を習得できる。 2. すでに学習した古典派との演奏スタイルの相違を知り、説明できる。 C水準（到達すれば「可」に相当） ロマン派の楽曲の特徴を知り、古典派とは違った演奏スタイルを感じ取り、演奏表現に結び付ける工夫をすることができる。			
授業の概要 ロマン派の作曲家のソナタ、及び他の作品を通して、音楽を表現するための演奏技術を学ぶと同時に、楽曲分析能力をつけるための方法を学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：ロマン派の楽曲についての考察 第3回：読譜について 第4回：演奏解釈（1）楽曲について、様々な知識を使って解釈する方法を学ぶ。 第5回：演奏解釈（2）楽曲について、主に音楽理論の知識を用いて解釈する方法を学ぶ。 第6回：様々な演奏テクニックについて（1）五指の独立や、親指を通すテクニックを準備体操を含めて、詳細に学ぶ。 第7回：様々な演奏テクニックについて（2）重音奏法やポリフォニー奏法、オクターヴ奏法の基本を学ぶ。 第8回：演奏時における腕と体の使い方について 第9回：演奏時における呼吸について 第10回：技術的な問題点の解決（1）課題曲の中におけるレガート奏法を中心にして、スケール・アルペジオ奏法の各自の弾きにくい箇所を取り上げる。 第11回：技術的な問題点の解決（2）課題曲の中におけるポリフォニー奏法を中心にして、各自の弾きにくい箇所を取り上げる。			

第12回：作曲された当時の時代背景について

第13回：ロマン派と古典派における作曲技法の違い

第14回：ロマン派と古典派における演奏様式の違い

第15回：ロマン派の楽曲についてのまとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

原典版（ヘンレ版、ウィーン原典版等）、または校訂版（パデレフスキー、ブライトコプフ等）の楽譜を各自で用意すること。

参考書・参考資料等

コルトー、ペルルミュテール、ケンプ、ボレー、アシュケナージ等の録音。（音楽棟資料室にあります）

兼常清佐著作集第5巻：大空社

学生に対する評価

授業への積極的参加態度（30%）、及び実技試験（70%）で評価する。

授業科目名： ピアノ展開Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 石川 美也子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 読譜力・演奏技術の基礎を習得し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。技術と表現の結びつきを、客観的な視点（聴力）で演奏に反映できる。			
授業の概要 古典派作品を中心とし、ピアノを演奏する上で必要な技術力と表現力を高める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（概要・課題選曲） 第2回：手のフォーム・指の動作・身体の使い方（基礎） 第3回：楽曲分析 第4回：基礎技術Ⅰフレーズ 第5回：基礎技術Ⅱハーモニー 第6回：アーティキュレーションの古典派解釈 第7回：フレーズとハーモニーの関連 第8回：構成 第9回：テンポ（技術・表現） 第10回：バランス 第11回：古典派表現Ⅰダイナミクス 第12回：古典派表現Ⅱ音色 第13回：古典派表現Ⅱ構成 第14回：仕上げ（客観性） 第15回：仕上げ 個々の技能や進度に合わせて、1～15回の内容を総合的に指導する。 実技試験 基礎と古典派作品を課題とする。グループ実施。			
テキスト ハノン（全音出版社・音楽之友社）ほか			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30%

試験レポート・・・10%

実技試験・・・60%

授業科目名： ピアノ実技Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 稲森 安太己 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ロマン派の楽曲を通して、ピアノスティックな演奏技術の習得と楽曲分析能力を向上させる。高度な演奏技術を要する楽曲を流暢に弾くことができ、楽曲の構成を理解できる。			
授業の概要 ロマン派の作曲家によるソナタ及び他の作品を通して、音楽を表現するための演奏技術を学び、楽曲分析能力をつけるための方法を学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス・課題曲の決定と考察 第2回：ロマン派の楽曲（特にシューベルト、ショパン、シューマン、リスト）について 第3回：読譜について 第4回：演奏解釈について（1）和声機能に即したフレージングについて 第5回：演奏解釈について（2）小フレーズと大フレーズについて 第6回：演奏テクニックについて（1）親指を活かした運指について 第7回：演奏テクニックについて（2）重音奏法、ポリフォニー奏法、オクターヴ奏法 第8回：演奏における腕と体の使い方について 第9回：演奏時における呼吸について 第10回：技術的な問題点の解決（1）レガート奏法を中心に 第11回：技術的な問題点の解決（2）ポリフォニー奏法を中心に 第12回：作品の時代背景について 第13回：ロマン派と古典派の作曲技法の違いについて 第14回：ロマン派と古典派の演奏様式の違いについて 第15回：ロマン派の楽曲についてのまとめ 定期試験（演奏試験を実施する）			
テキスト 各受講生の課題曲の原典版もしくは校訂版の楽譜（ヘンレ社、ベーレンライター社など）			

参考書・参考資料等

コルトー、ルビンシュタイン、ケンプ、アシュケナージ等の録音（音楽棟講義室に配架）

学生に対する評価

授業での課題への取り組み（30%）、実技試験（70%）

授業科目名： ピアノ展開Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 石川 美也子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 読譜力・演奏技術の基礎を習得し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。技術と表現の結びつきを、客観的な視点（聴力）で演奏に反映できる。			
授業の概要 ロマン派作品を中心とし、ピアノを演奏する上で必要な技術力と表現力を高める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（概要・課題選曲） 第2回：手のフォーム・指の動作・身体の使い方（基礎） 第3回：楽曲分析 第4回：基礎技術Ⅰモチーフ・声部の弾き分け 第5回：アーティキュレーションのロマン派解釈 第6回：基礎技術Ⅱフレーズ・ハーモニー 第7回：基礎技術Ⅲダイナミクス 第8回：テンポ 第9回：構成理解 第10回：バランス 第11回：ロマン派表現Ⅰダイナミクス 第12回：ロマン派表現Ⅱ音色 第13回：ロマン派表現Ⅱ構成 第14回：仕上げ（客観性） 第15回：仕上げ 個々の技能や進度に合わせて、1～15回の内容を総合的に指導する。 実技試験 基礎とロマン派作品を課題とする。グループ実施。			
テキスト ハノン（全音出版社・音楽之友社）ほか			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30%

試験レポート・・・10%

実技試験・・・60%

授業科目名： ピアノ実技 II 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 稲森 安太己 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 近代に作曲された様々な作品を通して、ピアニスティックな演奏技術の習得と楽曲分析能力を向上させる。			
授業の概要 フランスやロシアの近代の作曲家の作品にふさわしい演奏様式と解釈を学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス・課題曲の決定と考察 第2回：近代の楽曲（特にドビュッシー、ラヴェル、プロコフィエフ）について 第3回：読譜について 第4回：演奏テクニックについて（1）各学生の手にあった技術を見つける 第5回：演奏テクニックについて（2）レガート奏法とスタッカート奏法 第6回：演奏テクニックについて（3）スケール奏法とアルペジオ奏法 第7回：ポリフォニー奏法（1）2声対位法および3声対位法について 第8回：ポリフォニー奏法（2）4声部以上の対位法について 第9回：ペダルの使い方について（1）ペダルの踏み方の種類 第10回：ペダルの使い方について（2）フランス近代音楽におけるペダリング 第11回：演奏解釈について 第12回：作品の時代背景について 第13回：新しい芸術運動と音楽の関連について 第14回：文学・哲学と音楽の関連について 第15回：近代のピアノ音楽についてのまとめ 定期試験（演奏試験を実施する）			
テキスト 各受講生の課題曲の原典版もしくは校訂版の楽譜（ヘンレ社、ベーレンライター社など）			

参考書・参考資料等

コルトー、ルビンシュタイン、ケンプ、アシュケナージ等の録音（音楽棟講義室に配架）

学生に対する評価

授業での課題への取り組み（30%）、実技試験（70%）

授業科目名： ピアノ展開Ⅲ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 石川 美也子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 読譜力・演奏技術の基礎を習得し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。技術と表現の結びつきを、客観的な視点（聴力）で演奏に反映できる。			
授業の概要 ピアノ協奏曲を中心に、ピアノを演奏する上で必要な技術力と表現力を高め、アンサンブルにより音楽全体を捉えていく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（概要・課題選曲） 第2回：手のフォーム・指の動作・身体の使い方（基礎） 第3回：楽曲分析。ソロと伴奏。 第4回：基礎技術Ⅰフレーズ・ハーモニー・構成 第5回：基礎技術Ⅱダイナミクス・バランス 第6回：基礎技術Ⅲ時代様式 第7回：テンポ・構成理解 第8回：伴奏パートの理解 第9回：ソロ表現Ⅰ音色と身体の使い方 第10回：ソロ表現Ⅱ表現構成 第11回：アンサンブルⅠ 第12回：アンサンブルⅡ 第13回：仕上げⅠ（客観性） 第14回：仕上げⅡ（客観性） 第15回：仕上げⅢ 個々の技能や進度に合わせて、1～15回の内容を総合的に指導する。 実技試験 基礎とピアノ協奏曲作品を中心とした課題とする。グループ実施。			
テキスト ハノン（全音出版社・音楽之友社）ほか			
参考書・参考資料等			

なし

学生に対する評価

個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30%

試験レポート・・・10%

実技試験・・・60%

授業科目名： ピアノ実技 III 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 稲森 安太己 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 様々な作品を通してピアノスティックな演奏技術に習熟し、高度な演奏様式を身につける。 演奏解釈に必要な楽曲分析の能力を高める。			
授業の概要 各受講生が課題曲を選定し、それぞれの楽曲にふさわしい表現を様々な演奏技術と知識を駆使して楽曲の演奏に反映する。			
授業計画 第1回：ガイダンス・課題曲の決定と考察 第2回：読譜について 第3回：演奏テクニックについて（1）課題ごとの演奏困難な箇所の練習法を考察 第4回：演奏テクニックについて（2）指の運動に関連する課題 第5回：演奏テクニックについて（3）手首や腕の運動に関連する課題 第6回：楽曲分析（1）分析内容を演奏に反映させる技術 第7回：楽曲分析（2）分析内容を演奏に反映させた結果を検証する方法 第8回：楽曲分析（3）分析内容の正誤の判定と独自分析による表現の許容範囲について 第9回：演奏解釈について（1）テクニックと分析から考察する演奏内容の範囲について 第10回：演奏解釈について（2）演奏解釈を確定させる指針について 第11回：暗譜について（1）身体的暗譜について 第12回：暗譜について（2）分析的暗譜について 第13回：作品の時代背景について 第14回：演奏芸術について 第15回：総合的なまとめ 定期試験（演奏試験を実施する）			
テキスト 各受講生の課題曲の原典版もしくは校訂版の楽譜（ヘンレ社、ベーレンライター社など）			

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業での課題への取り組み（30%）、実技試験（70%）

授業科目名： ピアノ展開Ⅳ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 石川 美也子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 読譜力・演奏技術の基礎を習得し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。技術と表現の結びつきを、客観的な視点（聴力）で演奏に反映できる。			
授業の概要 ロマン派後期～近現代作品を課題とし、ピアノを演奏する上で必要な技術力と表現力を高める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（概要・課題選曲） 第2回：手のフォーム・指の動作・身体の使い方（基礎） 第3回：楽曲分析。 第4回：基礎技術Ⅰアーティキュレーション・音型 第5回：基礎技術Ⅱフレーズ・ハーモニー 第6回：基礎技術Ⅲダイナミクス・バランス 第7回：テンポ・時代様式の理解 第8回：ペダル・身体の使い方 第9回：ロマン派後期～近現代表現Ⅰ音色 第10回：ロマン派後期～近現代表現Ⅱフレーズ・ハーモニー 第11回：ロマン派後期～近現代表現Ⅲ背景・キャラクター 第12回：ロマン派後期～近現代表現Ⅳ身体の使い方 第13回：構成 第14回：仕上げⅠ（客観性） 第15回：仕上げⅡ 個々の技能や進度に合わせて、1～15回の内容を総合的に指導する。 実技試験 基礎とロマン派後期～近現代作品を課題とする。グループ実施。			
テキスト ハノン（全音出版社・音楽之友社）ほか			
参考書・参考資料等			

なし

学生に対する評価

個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30%

試験レポート・・・10%

実技試験・・・60%

授業科目名： ピアノ実技 IV 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 稲森 安太己 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 規模の大きな作品を通してピアノスティックな演奏技術に習熟し、高度な演奏様式を身につける。複雑な楽曲の演奏解釈に必要な楽曲分析の能力を高める。			
授業の概要 各受講生が課題曲を選定し、それぞれの楽曲にふさわしい表現を高度な演奏技術と知識を駆使して楽曲の演奏に反映する。			
授業計画 第1回：ガイダンス・課題曲の決定と考察 第2回：読譜について 第3回：演奏テクニックについて（1）課題ごとの演奏困難な箇所の練習法を考察 第4回：演奏テクニックについて（2）困難なテクニックの克服のための練習法 第5回：楽曲分析（1）和声機能に基づく分析 第6回：演奏テクニックについて（3）修めたテクニックの練度の向上について 第7回：演奏テクニックについて（4）総合的なテクニックの完成 第8回：楽曲分析（2）フレーズやアーティキュレーションに基づく分析 第9回：演奏解釈について（1）即時的・直感的演奏解釈の自覚の方法 第10回：楽曲分析（3）作曲家のスタイルに基づく分析 第11回：演奏解釈について（2）分析に基づく演奏解釈を演奏に反映させる方法 第12回：作品の時代背景について 第13回：演奏芸術について 第14回：暗譜について 第15回：総合的なまとめ 定期試験（演奏試験を実施する）			
テキスト 各受講生の課題曲の原典版もしくは校訂版の楽譜（ヘンレ社、ベーレンライター社など）			

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業での課題への取り組み（30%）、実技試験（70%）

授業科目名： ピアノ展開Ⅴ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 石川 美也子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 読譜力・演奏技術の基礎を習得し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。技術と表現の結びつきを、客観的な視点（聴力）で演奏に反映できる。			
授業の概要 個々に適した作品を課題とし、知識を深めながらピアノを演奏する上で必要な技術力と表現力を高める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（概要・課題選曲） 第2回：手のフォーム・指の動作・身体の使い方（基礎） 第3回：楽曲分析 第4回：基礎Ⅰモチーフ 第5回：基礎Ⅱフレーズ・ハーモニー 第6回：基礎Ⅲダイナミクス・バランス 第7回：テンポ・時代様式の理解 第8回：ペダル・身体の使い方 第9回：表現Ⅰ音色 第10回：表現Ⅱフレーズ・ハーモニー 第11回：表現Ⅲ背景・キャラクター 第12回：表現Ⅳ身体の使い方 第13回：構成 第14回：仕上げⅠ（客観性） 第15回：仕上げⅡ 個々の技能や進度に合わせて、1~15回の内容を総合的に指導する。 実技試験 各自に適した楽曲を課題とする。グループ実施。			
テキスト ハノン（全音出版社・音楽之友社）ほか			
参考書・参考資料等			

なし

学生に対する評価

個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30%

試験レポート・・・10%

実技試験・・・60%

授業科目名： ピアノ課題研究 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 石川 美也子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 読譜力・演奏技術の基礎を応用し、楽曲分析から演奏技術への反映、音楽表現に必要な客観性へ結びつけることができる。専門性の高い音楽教員としての音楽技能を習得する。			
授業の概要 卒業演奏に向けて、舞台表現にふさわしく個々に適した作品を課題とし、卒業論文により学術的な知識を深めながら、演奏表現に結びつけ音楽技能を高める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（概要・課題選曲） 第2回：楽曲分析 第3回：技術基礎Ⅰ指の訓練 第4回：楽曲分析Ⅱ 第5回：技術基礎Ⅱ課題にふさわしい技術 第6回：構成分析 第7回：技術基礎Ⅲ骨格 第8回：表現Ⅰ身体使い方 第9回：表現Ⅱ音色 第10回：表現Ⅲフレーズ・モチーフ 第11回：表現Ⅳ客観性 第12回：作品背景・作曲家分析 第13回：舞台所作と演奏持久力 第14回：仕上げⅠ暗譜 第15回：仕上げⅡ 個々の技能や進度に合わせて、1～15回の内容を総合的に指導する。 実技試験 各自に適した楽曲を課題とする。グループ実施。			
テキスト ハノン（全音出版社・音楽之友社）ほか			
参考書・参考資料等			

なし

学生に対する評価

個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・20%

試験レポート・・・10%

実技試験・・・70%

授業科目名： 器楽基礎（和楽器を含む） 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山田 高誌／今井 治人、林直子 担当形態： クラス分け・単独／オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 リコーダーの歴史、演奏について学ぶとともに、日本伝統楽器の演奏法を学ぶ。			
授業の概要 リコーダーの歴史、用いられた時代の演奏様式について学び、様々な様式、ジャンルの音楽の実習を行う。また、日本伝統楽器として琴、三味線等について広く学ぶ。			
授業計画 第1回：リコーダーの歴史 ～ 歴史的音楽再構築の手がかりとしての“現代楽器”（山田 高誌／今井 治人） 第2回：リコーダー奏法の基礎。そして再構築されうる“歴史的演奏様式”について（山田 高誌／今井 治人） 第3回：リコーダー：ルネサンス時代の舞曲音楽の合奏（山田 高誌／今井 治人） 第4回：リコーダー：ルネサンス時代のポリフォニー作品の合奏（山田 高誌／今井 治人） 第5回：世俗歌曲マドリガーレの理解 ～ 詩の韻律の理解（山田 高誌／今井 治人） 第6回：リコーダー：世俗歌曲の合奏（山田 高誌／今井 治人） 第7回：通奏低音実習（山田 高誌／今井 治人） 第8回：リコーダー：バロック時代の独奏ソナタの課題と練習（山田 高誌／今井 治人） 第9回：リコーダー：バロック時代の独奏ソナタの合奏（山田 高誌／今井 治人） 第10回：リコーダー 演奏試験（山田 高誌／今井 治人） 第11回：日本伝統楽器：イントロダクション 楽器について歴史、記譜法（山田 高誌／林直子） 第12回：日本伝統楽器：奏法の初歩（山田 高誌／林 直子） 第13回：日本伝統楽器：個人練習（山田 高誌／林 直子） 第14回：日本伝統楽器：合奏（山田 高誌／林 直子） 第15回：日本伝統楽器：演奏試験（山田 高誌／林 直子） 定期試験は実施しない。			

テキスト 適宜指示する
参考書 適宜指示する
学生に対する評価 各授業とも、授業に対する参加度（50%）、実技試験（50パーセント）により評価を行う。

授業科目名： 器楽展開 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 今井 治人 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 楽器奏法を習得する過程から器楽指導の実践に必要な知識・技能を身につける。			
授業の概要 各種リコーダーによる重奏の課題を通じて、器楽指導における実践的な知識・技能の演習をする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：チューニングについて 第3回：課題曲Ⅰ（二重奏）①2声体におけるハーモニーについて 第4回：課題曲Ⅰ（二重奏）②2声体におけるポリフォニーについて 第5回：課題曲Ⅰ（二重奏）③アインザッツ・ディナーミック・アゴーギグ・バランス 第6回：課題曲Ⅱ（三重奏）①3声体におけるハーモニーについて 第7回：課題曲Ⅱ（三重奏）②3声体におけるポリフォニーについて 第8回：課題曲Ⅱ（三重奏）③アインザッツ・ディナーミック・アゴーギグ・バランス 第9回：課題曲Ⅲ（四重奏）①4声体におけるハーモニーについて 第10回：課題曲Ⅲ（四重奏）②4声体におけるポリフォニーについて 第11回：課題曲Ⅲ（四重奏）③アインザッツ・ディナーミック・アゴーギグ・バランス 第12回：課題曲Ⅳ（四重奏以上）①ハーモニーについて 第13回：課題曲Ⅳ（四重奏以上）②ポリフォニーについて 第14回：課題曲Ⅳ（四重奏以上）③アインザッツ・ディナーミック・アゴーギグ・バランス 第15回：全体のまとめ 定期試験			
テキスト 適宜配布			
参考書・参考資料等 吉沢実「リコーダーアンサンブルの基礎と技法【改訂版】」全音音楽出版社			
学生に対する評価 授業での取り組み50%、期末試験50%をもとに総合的に評価する。			

授業科目名： 器楽特別演習 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 今井 治人 担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 器楽奏法の学修を深め、技術と表現を両輪とする器楽指導の実践で必要な知識・技能を身につける。			
授業の概要 受講生の演奏技術の向上に資するとともに、器楽指導における実践的な知識・技能の演習をする。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：課題曲への考察とこれからの進め方 第3回：正確な読譜を目指す（リズム、ダイナミクス、音程） 第4回：正確な読譜を目指す（和声進行を把握する） 第5回：音楽の要素の表現への反映について（楽器の発音の仕組みからの考察） 第6回：音楽の要素の表現への反映について（身体能力の有効な活用からの考察） 第7回：楽曲構成についての考察（作曲様式や形式論から） 第8回：楽曲構成への考察と表現への反映（作品の全体像を把握する能力の向上） 第9回：これまでの成果演奏とその評価及び解説 第10回：二重奏の課題について（アンサンブルにおけるリズム、ダイナミクス、音程の処理法） 第11回：二重奏の課題について（アンサンブルにおける各声部の和声的処理について） 第12回：二重奏の課題について（演奏を形成するコミュニケーションの方法について） 第13回：二重奏の課題について（演奏全体像を構成する形式の共有について） 第14回：二重奏の課題の演奏とその評価及び解説 第15回：総論（これまでの学修の確認及び最終演奏） 定期試験			
テキスト 適宜配布			
参考書・参考資料等 適宜配布			
学生に対する評価 授業での取り組み50%、最終演奏50%			

授業科目名： 日本伝統音楽実習 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 林 直子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 日本伝統音楽を習得し、学校教育現場で実際に実技指導を伴う授業を実現する			
授業の概要 三味線を使い、童謡から長唄まで実技を体験し、日本伝統音楽の基本を学ぶ			
授業計画 第1回：三味線について、歴史、構造、材質などを理解する 取り扱い方、調弦、構え方を習得する 第2回：第1回の復習 実際に音を出す 童謡「うさぎ」、「さくら」の演奏 第3回：第2回の復習 ド、レ、ミ、ファ、ラ、シの音の確認 「お江戸日本橋」を演奏 奏法の「すくい」と「はじき」を覚える 第4回：第3回の復習 「お江戸日本橋」を1オクターブ上げて弾く 中指、薬指を使う 長唄「松の緑」の前弾きを弾く 第5回：第4回の復習 長唄「勸進帳」の寄せの合方を弾く ミからドへの指の動かし方を覚える 第6回：第5回の復習 長唄「鞍馬山」のセリの合方を弾く 第7回：模擬授業の実施 実際に生徒に教える立場になったみる 第8回：第7回までの復習 長唄「吾妻八景」の佃の合方を弾く 第9回：第8回の復習 長唄「四季の山姥」の虫の合い方を弾く 第10回：第9回の復習 長唄「連獅子」の狂いの合方を弾く 第11回：第10回の復習 長唄「小鍛冶」の拍子の合方を弾く 第12回：第11回の復習 長唄「小鍛冶」の拍子の合方の替手を弾く 第13回：第12回の復習 長唄「小鍛冶」の拍子の合方を合奏する 第14回：総合復習（まとめ） 第15回：試験課題曲の練習 定期試験			
テキスト 適宜指示する			

参考書・参考資料等

適宜指示する

学生に対する評価

日本伝統音楽に取り組む意欲を①出席率で②習得の度合いで、を持って総合的判断とする

授業科目名： 音楽実践課題研究 【独自科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 今井 治人 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 授業で培った演奏や研究への多様な視点を用いて自らの力で演奏や研究成果を構築できる。			
授業の概要 指揮・器楽の課題研究である。課題曲について技術と知識の両面から考察を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：課題曲の設定とこれからの研究方針について 第3回：課題曲の技術的側面への考察 第4回：課題曲の理論的側面への考察 第5回：課題曲の歴史的側面への考察 第6回：これまでの考察の整理と演奏実践へ反映するための方法論 第7回：課題曲の音楽的言語について（技術的側面との関連） 第8回：課題曲の音楽的言語について（理論的側面との関連） 第9回：課題曲の音楽的言語について（歴史的側面との関連） 第10回：これまでの考察の整理と演奏実践（技術的側面の実践） 第11回：これまでの考察の整理と演奏実践（理論的側面の実践） 第12回：これまでの考察の整理と演奏実践（歴史的側面の実践） 第13回：研究成果への更なる考察（楽曲構成を踏まえた課題の抽出） 第14回：研究成果の詳細な検討（技術的及び表現内容について） 第15回：研究成果の再確認 定期試験			
テキスト 適宜指示する			
参考書 適宜指示する			
学生に対する評価 議論への参加（20%）、課題への取り組み30%、定期試験50%に基づき総合的に判断する。			

授業科目名： 合奏 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山田 高誌／今井 治人 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽 (合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 合奏の指導に必要な知識と技能を身につけ、指導に生かすことができる。			
授業の概要 楽器演奏を通して合奏の方法を学び、合奏指導で活用できる実践的な知識と技能を身につける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：楽曲の練習1 (課題楽曲に応じた各楽器のスケールの練習) 第3回：楽曲の練習2 (ロングトーンの練習) 第4回：楽曲の練習3 (楽器特有のアーティキュレーションの付け方) 第5回：楽曲の練習4 (スケールを利用したアーティキュレーションの実践) 第6回：楽曲の練習5 (演奏可能な音域を拡大するための技能) 第7回：楽曲の練習6 (和音の合わせ方) 第8回：楽曲の練習7 (アンサンブルに必要なインザッツとブレス) 第9回：楽曲の練習8 (指導法への展開) 第10回：合奏の方法1 (課題楽曲の選定と楽器の編成) 第11回：合奏の方法2 (パートの役割) 第12回：合奏の方法3 (これまでの学習を踏まえた合奏の実践) 第13回：合奏の方法4 (実践を通じた合奏の方法の考察) 第14回：合奏の方法5 (指導法への展開) 第15回：成果発表 定期試験は行わない			
テキスト 適宜、提示する。			
参考書・参考資料等 履修者の演奏可能な楽器の構成に合わせて、適宜、提示する。			
学生に対する評価 授業への参加 (50%)、成果発表 (50%) によって総合的に評価する。			

授業科目名： 伴奏法演習Ⅰ 【シラバス共通科目（熊 大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 稲森 安太己／石川 美也子 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ピアノ伴奏の基礎知識、基礎技術を修得する。音楽全体を捉える事ができる。			
授業の概要 音楽教員の授業展開に必要なピアノ伴奏の基礎技術や、主に学校教材の中の作品を取り上げ、 楽曲全体の理解力を高める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（概要・課題選曲） 第2回：楽曲分析 伴奏 第3回：楽曲分析 第4回：モチーフの役割 第5回：ハーモニーの理解 第6回：歌詞の理解 第7回：フレーズとの関わり・アンサンブルの特性 第8回：弾き歌い 第9回：バランス・テンポ 第10回：ダイナミクス 第11回：全体構成 第12回：演奏時の身体の使い方、聴力 第13回：合わせ 第14回：仕上げ 第15回：まとめ グループ学習と個人指導にて1～15回の内容を総合的に指導する。 実技試験			
テキスト 学校教材の他、個々に合わせて設定する。			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30%

実技試験・・・70%

授業科目名： 伴奏法演習Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択	単位数： 1単位	担当教員名： 石川 美也子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ピアノ伴奏の知識、応用技術を修得する。音楽全体を捉える事ができる。			
授業の概要 音楽教員の授業を幅広く展開できるピアノ伴奏の応用技術や、様々な楽器や形態の作品を取り上げ、楽曲全体の理解力や表現力を高める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（概要・課題選曲） 第2回：弾き歌い・楽曲簡易分析 第3回：初見・聴き分け 第4回：要約・ハーモニーの役割 第5回：無伴奏楽譜の伴奏付け 第6回：アンサンブルの特性Ⅰ 歌曲と合唱の違い 第7回：アンサンブルの特性Ⅱ 器楽（管楽器・弦楽器・打楽器） 第8回：楽曲分析 第9回：モチーフ、フレーズ分析 第10回：全体構成 第11回：伴奏の役割、バランス 第12回：身体の使い方、聴力、ペダル 第13回：合わせ 第14回：仕上げ 第15回：まとめ グループ学習と個人指導にて1~15回の内容を総合的に指導する。			
実技試験			
テキスト 学校教材の他、個々に合わせて設定する。			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30%

実技試験・・・70%

授業科目名： 指揮法 I 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今井 治人 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 指揮法		
授業のテーマ及び到達目標 音楽的な意図を明確に伝えるための基礎的な指揮法を身につける。			
授業の概要 ピアノを使った演習を行い、基礎的な段階から応用段階に至る指揮の技法について解説する。			
授業計画 第1回：指揮法の概要と打法（解説・演習） 第2回：斎藤秀雄著「指揮法教程」練習題 No.1（解説） 第3回：斎藤秀雄著「指揮法教程」練習題 No.1（演習） 第4回：斎藤秀雄著「指揮法教程」練習題 No.2（解説） 第5回：斎藤秀雄著「指揮法教程」練習題 No.2（演習） 第6回：斎藤秀雄著「指揮法教程」練習題 No.4（解説） 第7回：斎藤秀雄著「指揮法教程」練習題 No.4（演習） 第8回：斎藤秀雄著「指揮法教程」練習題 No.7（解説・演習） 第9回：ドリープ「コッペリア・ワルツ」（解説） 第10回：ドリープ「コッペリア・ワルツ」（演習） 第11回：三善晃「麦わら帽子」（解説・演習） 第12回：G.ホルスト「吹奏楽のための組曲第1番・シャコンヌ」（スコアリーディング） 第13回：G.ホルスト「吹奏楽のための組曲第1番・シャコンヌ」（解説と演習1） 第14回：G.ホルスト「吹奏楽のための組曲第1番・シャコンヌ」（解説と演習2） 第15回：成果発表 定期試験			
テキスト 斎藤秀雄著「改訂新版指揮法教程」音楽之友社			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 授業での課題への取り組み50%、期末試験50%から総合的に評価する。			

授業科目名： 指揮法Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 今井 治人 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・指揮法		
授業のテーマ及び到達目標 音楽的な意図を明確に伝えるための基礎的な指揮法を身につける。			
授業の概要 ピアノ連弾を使った演習。スコアリーディングの習熟と共に応用段階の指揮法について解説する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：ドビュッシー「小組曲・1.小舟にて」（楽曲分析とそれを踏まえた指揮法の解説） 第3回：ドビュッシー「小組曲・1.小舟にて」（実践演習） 第4回：ドビュッシー「小組曲・3.メヌエット」（楽曲分析とそれを踏まえた指揮法の解説） 第5回：ドビュッシー「小組曲・3.メヌエット」（実践演習） 第6回：ドビュッシー「小組曲・4.バレエ」（楽曲分析とそれを踏まえた指揮法の解説） 第7回：ドビュッシー「小組曲・4.バレエ」（実践演習） 第8回：ドビュッシー「小組曲・4.バレエ」（実践演習への追加指導及び解説） 第9回：ドビュッシー「小組曲」成果発表（講評及び解説） 第10回：J.シュトラウス「こうもり」序曲（前半部の楽曲分析とそれを踏まえた指揮法の解説） 第11回：J.シュトラウス「こうもり」序曲（前半部の実践演習） 第12回：J.シュトラウス「こうもり」序曲（中間部の楽曲分析とそれを踏まえた指揮法の解説） 第13回：J.シュトラウス「こうもり」序曲（中間部の実践演習） 第14回：J.シュトラウス「こうもり」序曲（終結部の楽曲分析とそれを踏まえた指揮法の解説及び実践演習） 第15回：J.シュトラウス「こうもり」序曲 成果発表（講評及び解説） 定期試験			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 斎藤秀雄著「改訂新版指揮法教程」音楽之友社			
学生に対する評価 授業での課題への取り組み50%、期末試験50%から総合的に評価する。			

授業科目名： 音楽理論A 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田高誌 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 データベース、レファレンス資料の使い方、そして先行研究を調べ、自らの興味や問を自ら解決する手法を身につける。そしてそれらを通して音楽研究、分析法を学ぶ。			
授業の概要 レファレンス資料、データベースの使い方、学术论文の仕組み、レジュメ、パワーポイント作成を学ぶ。それを通して多様な音楽に関わる専門研究について理解を図る。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：各種音楽事典の使い方 第3回：各種オンラインデータベースの使い方 第4回：学术论文の仕組み1 ～ 検索方法 第5回：学术论文の仕組み2 ～ 書式、文献記載法 第6回：学术论文の仕組み3 ～ 構成、脚注、引用方法 第7回：以下各トピックに関わる「先行研究」を各自探し、以下、輪読/ 討議の準備を行う 第8回：西洋楽器に関する論文についての紹介と討議 第9回：バロック～古典派時代の楽曲に関する論文の紹介と討議 第10回：ロマン派時代の楽曲に関する論文の紹介と討議 第11回：20世紀の作品の楽曲に関する論文の紹介と討議 第12回：日本の伝統楽器に関する論文の紹介と討議 第13回：日本の伝統音楽に関する論文の紹介と討議 第14回：世界の楽器、音楽に関する論文の紹介と討議 第15回：とりまとめと総括 定期試験は実施しない			
テキスト 適宜指示する			
参考書・参考資料等			

久保田慶一『音楽の文章セミナー』音楽之友社

学生に対する評価

授業に対する参加度(40%)、個人発表の準備と達成度(60%)による。

授業科目名： 音楽基礎理論 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石川 美也子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 音楽の基礎理論を理解し、読譜における基礎知識を習得し基本的な楽曲分析ができる。			
授業の概要 基本的な音楽理論を学び、楽曲分析や読譜における基礎力を身につける。			
授業計画 第1回：譜表と音名、音符 第2回：リズムと拍子 第3回：音程Ⅰ 第4回：音程Ⅱ 第5回：音階Ⅰ 第6回：音階Ⅱ 第7回：移調 第8回：調の関係 第9回：調判定 第10回：和音Ⅰ 第11回：和音Ⅱ 第12回：楽語・表示法 第13回：コードネーム 第14回：奏法 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 新装版 楽典 理論と実習（音楽の友社）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価			

毎回の取り組み・・・30%

定期試験・・・70%

授業科目名： 音楽理論 BI 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 稲森 安太己 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 音楽教育に必要な西洋音楽の基礎理論、和声法を学習し、音楽の知識と理解を深める。			
授業の概要 和声理論の講義をもとに、和声課題を実施し、その実践力を確認する。各種楽曲の和声分析を行う。			
授業計画 第1回：三和音の概説 第2回：配置、声部について 第3回：一般禁則について 第4回：三和音基本形について 第5回：三和音基本形の連結法について 第6回：三和音基本形によるバス課題の実施 第7回：三和音第1転回形について 第8回：三和音第1転回形の連結法について 第9回：三和音第1転回形によるバス課題の実施 第10回：三和音第2転回形について・第2転回形の連結法について 第11回：三和音第2転回形によるバス課題の実施 第12回：機能と和声について 第13回：カデンツについて 第14回：長調、短調の課題について 第15回：音楽理論 BI のまとめ 定期試験			
テキスト 島岡 譲著『和声のしくみ 楽曲のしくみ』音楽之友社（2012）			

参考書・参考資料等

島岡 譲 他著『総合和声 実技・分析・原理』音楽之友社(1998)

池内友次郎 他著『和声 理論と実習 I』音楽之友社 (2000)

学生に対する評価

授業中の課題への取り組み (30%)、定期試験 (70%)

授業科目名： 音楽理論 BII 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 稲森 安太己 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 音楽理論を通して調性感覚、和声感覚を高め、課題実習を通して理論を習得する。			
授業の概要 ドミナント諸和音、借用和音の進行法を学習する。バス課題およびソプラノ課題の実施を通して理論に習熟し、知識を深める。			
授業計画 第1回：ドミナント諸和音の確認 第2回：カデンツについて 第3回：属七和音、属九和音の復習 第4回：属七和音、属九和音のソプラノ課題について 第5回：非和声音について 第6回：サブドミナント諸和音（D2 和音）の概説 第7回：借用和音、代理和音について 第8回：ドッペルドミナント和音について 第9回：ドリアの和音について 第10回：ナポリの和音について 第11回：サブドミナント諸和音（D2 和音）バス課題について 第12回：サブドミナント諸和音（D2 和音）のソプラノ課題について 第13回：楽曲における和音の分析について 第14回：サブドミナント諸和音（D2 和音）の総論 第15回：音楽理論 BII のまとめ 定期試験			
テキスト 島岡 譲著『和声のしくみ 楽曲のしくみ』音楽之友社（2012）			

参考書・参考資料等

島岡 譲 他著『総合和声 実技・分析・原理』音楽之友社(1998)

池内友次郎 他著『和声 理論と実習 I』音楽之友社 (2000)

学生に対する評価

授業中の課題への取り組み (30%)、定期試験 (70%)

授業科目名： 作曲法 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 稲森 安太己 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 音楽教育に必要な西洋音楽の基礎理論、和声法を学習し、知識と理解を深める。楽曲の和声分析や非和声音の分析を通して楽曲の読譜力を高める。			
授業の概要 和声理論の講義をもとに、和声課題を実施し、実践力を身につける。各種楽曲の和声分析や非和声音の分析を行う。			
授業計画 第1回：ドミナント諸和音の概説 第2回：カデンツについて 第3回：属七和音の概説 第4回：属九和音の概説 第5回：長調の属七、属九和音の活用 第6回：短調の属七、属九和音の活用 第7回：ドミナント諸和音のバス課題について 第8回：ドミナント諸和音のバス課題の実施 第9回：ソプラノ課題の概説 第10回：旋律線について 第11回：二声対位法の概説 第12回：ドミナント諸和音のソプラノ課題概説 第13回：ドミナント諸和音のソプラノ課題の実施 第14回：楽曲における和声分析概説 第15回：作曲法のまとめ 定期試験			
テキスト 島岡 譲著『和声のしくみ 楽曲のしくみ』音楽之友社（2012）			

参考書・参考資料等

島岡 譲 他著『総合和声 実技・分析・原理』音楽之友社(1998)

池内友次郎 他著『和声 理論と実習 I』音楽之友社 (2000)

学生に対する評価

授業中の課題への取り組み (30%) 、定期試験 (70%)

授業科目名： 作曲演習Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 稲森 安太己 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 楽器学・管弦楽法の基礎を学び、編曲実習を通して楽器を活かした書法を磨く。様々な作曲家の様式を学習し、各種様式を模した作曲実習を行い、音楽理解力を高める。			
授業の概要 様々な作曲家の様式による作曲実習を行う。短いピアノ曲を小編成（二重奏から三重奏）のアンサンブルに編曲する実習を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス・編曲法（1）木管楽器Ⅰ 第2回：編曲法（2）木管楽器Ⅱ 第3回：編曲法（3）金管楽器Ⅰ 第4回：編曲法（4）金管楽器Ⅱ 第5回：編曲法（5）弦楽器Ⅰ 第6回：編曲法（6）弦楽器Ⅱ 第7回：編曲法（7）総論 第8回：スタイル・スタディー（1）ベートーヴェン 第9回：スタイル・スタディー（2）ショパン 第10回：スタイル・スタディー（3）受講生の選択による作曲家 第11回：スタイル・スタディー（4）ブラームス 第12回：スタイル・スタディー（5）受講生の選択による作曲家 第13回：スタイル・スタディー（6）ドビュッシー 第14回：スタイル・スタディー（7）ストラヴィンスキー 第15回：総論 定期試験（作品発表）			
テキスト			

教員作成資料を適宜配布

参考書・参考資料等

河江 一仁著『新総合音楽講座 8 管弦楽法概論』（財団法人ヤマハ音楽振興会）

学生に対する評価

課題提出（50%）、授業内での課題への取り組み（20%）、定期試験（30%）

授業科目名： 作曲演習 II 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 稲森 安太己 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 管弦楽の楽器の特性や書法を深く理解し、作曲に活かす。楽曲の形式や構成を工夫し、創作主題をもとに小編成の楽曲を作曲し、創造的な音楽性を高める。			
授業の概要 管弦楽の楽器の特性や書法、主題の創作や展開、変奏法について学習する。創作主題に基づき、形式・構成を感じさせることのできる楽曲の作曲実習を行う。			
授業計画 第1回：主題の創作について 第2回：主題の展開、変奏法について（1）和音の修飾と非和声音 第3回：編曲法応用（1）各種木管姉妹楽器 第4回：主題の展開、変奏法について（2）リズムの拡大・縮小と音程の拡大・縮小 第5回：複数の楽器による響きの作り方について 第6回：編曲法応用（2）打楽器 第7回：2部形式・3部形式について 第8回：ソナタ形式について（1）ソナタ形式の構造と判定について 第9回：編曲法応用（3）ハーブ 第10回：ソナタ形式について（2）ソナタ形式の調機能について 第11回：その他の形式について 第12回：編曲法応用（4）鍵盤楽器 第13回：自由な形式の楽曲について 第14回：音楽における形式の意義・意味について 第15回：総論 定期試験（作品発表）			
テキスト			

教員作成資料を適宜配布

参考書・参考資料等

河江 一仁著『新総合音楽講座8 管弦楽法概論』（財団法人ヤマハ音楽振興会）

学生に対する評価

課題提出（50%）、授業内での課題への取り組み（20%）、定期試験（30%）

授業科目名： 音楽学演習I 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山田高誌
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 音楽学の諸課題について理解を深める。			
授業の概要 音楽学の中心的課題である楽譜校訂について学ぶ。			
授業計画 第1回：音楽学という学問領域 第2回：楽譜校訂の種類 ～ 批判校訂版の意義、役割 第3回：楽譜史料検索の手法 第4回：楽譜史料検索の実際 第5回：批判校訂版作成にむけて、校訂方針の決定と、課題楽曲の設定 第6回：楽譜作成ソフト（フィナーレ）使い方実習 第7回：楽譜作成ソフト（ミューズスコア）使い方実習 第8回：校訂作業実習 ガイダンス 第9回：校訂作業実習 音符入力 第10回：校訂作業実習 省略記号 第11回：校訂作業実習 表情記号 第12回：校訂作業実習 歌詞入力 第13回：校訂作業実習 誤記等に対する介入 第14回：校訂作業実習 校訂ノート記載 第15回：とりまとめと総括 定期試験は実施しない			
キスト 適宜指示する			
参考書・参考資料等 徳丸吉彦『民族音楽学』放送大学、1991 久保田慶一 他『はじめての音楽史』音楽之友社、1996			

柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』音楽之友社、1999

根岸一美、三浦信一郎編『音楽学を学ぶ人のために』世界思想社、2004

ウィリー・アーペル『ポリフォニー音楽の記譜史』東川清一訳、春秋社、1998

大崎滋生『文化としてのシンフォニー』平凡社、2005

Maria Caraci Vela, *La filologia musicale, Istituzioni, storia, strumenti critici*, Lucca, LIM, 2005

福中冬子訳『ニュー・ミュージコロジー 音楽作品を「読む」批評理論』慶應義塾大学出版会、201

学生に対する評価

授業における参加度（50%）、課題における達成度（50%）

授業科目名： 音楽学演習Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山田高誌 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 音楽文化に関わる諸課題（西洋、諸民族、日本、ポピュラー）について理解を深める。			
授業の概要 音楽文化学領域の様々な対象、研究手法を学ぶ。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：西洋音楽研究における諸課題 概要 第3回：楽曲分析について 第4回：歴史区分について 第5回：ジャンル区分について 第6回：楽譜校訂について 第7回：日本音楽史研究における諸課題 概要 第8回：能、歌舞伎について 第9回：明治以降の邦楽、“作られた伝統”について 第10回：民族音楽学研究における諸課題 概要 第11回：モンゴル、インドを事例として 第12回：西洋における諸民族の音楽（イタリア、東欧を中心とする伝統音楽） 第13回：ポピュラー音楽研究における諸課題 概要 第14回：ロック、ヒップホップを事例として 第15回：とりまとめと総括 定期試験は実施しない			
テキスト 適宜指示する			
参考書・参考資料等 適宜指示する			
学生に対する評価 授業課題における取組姿勢と達成度（60%）、期末レポート課題（40%）により評価する。			

授業科目名： 音楽史 I 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 山田高誌、 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 世界各地の音楽の役割を理解したうえで、西洋と世界の各時代の様々なトピックを学ぶ。			
授業の概要 「音楽」の総体から、一部が抜き出されて「歴史」とされたその「一部」の西洋と世界の音楽、および取りこぼされてきた音楽について、それぞれ理解を深める。			
授業計画 第 1 回：世界の音楽の構造 ～ 宗教、共同体、産業 第 2 回：世界の楽器の広がり ～ ユーラシア大陸上の人々のコミュニケーションとして 第 3 回：歴史を刻むという行為 ～ 「西洋音楽史」と「クラシック概念」の成立 第 4 回：中世までの西洋音楽 ～ 古代ギリシャ、五線の発明 第 5 回：ルネサンス時代の音楽 ～ ポリフォニーの発展 第 6 回：近代の芽生え 通奏低音の発明 第 7 回：モンテヴェルディ《オルフェーオ》（1607） 第 8 回：バロック時代の声楽、器楽 第 9 回：オペラの仕組み ジャンル、役割、レパートリー 第 10 回：モーツァルトと《フィガロの結婚》（1786） 第 11 回：ベートーヴェンのシンフォニーとロマン派 第 12 回：ヴェルディ、ヴェリスモオペラ 第 13 回：20 世紀音楽 ～ 無調、新古典主義、12 音技法、セリー技法 第 14 回：日本音楽史概論・通史 1 雅楽 第 15 回：日本音楽史概論・通史 2 能、狂言、人形浄瑠璃等、その他の芸能 定期試験は実施しない			

テキスト

適宜指示

参考書・参考資料等

カロツツォ&チマガッリ『西洋音楽の歴史1～3』川西麻理訳（2009-11）ほか

学生に対する評価

授業参加度（30%）、ミニレポート（20%）、期末レポート課題（50%）により評価する。

授業科目名： 音楽史II 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山田高誌
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 通史の一部となる西洋音楽の個別ジャンルの形成と展開を、具体的なトピックを通して学ぶ			
授業の概要 シンフォニー、オペラを中心に、ジャンルの形成、展開を多角的に検討する。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：ジャンルの成立と発展、記述 第3回：シンフォニー：17世紀の器楽曲として 第4回：シンフォニー：18世紀 オペラ序曲として 第5回：シンフォニー：18世紀 交響曲として 第6回：シンフォニー：19世紀 ベートーヴェン、ブルックナー 第7回：シンフォニー：19世紀 交響詩 第8回：オペラ：17世紀 モノディと初期オペラ 第9回：オペラ：17世紀 ヴェネツィアオペラ 第10回：オペラ：18世紀 オペラ・セリア 台本の仕組み 第11回：オペラ：18世紀 オペラ・セリア 音楽の仕組み 第12回：オペラ：18-19世紀 喜劇オペラ 台本の仕組み 第13回：オペラ：18-19世紀 喜劇オペラ 音楽の仕組み 第14回：オペラ：19世紀 オペラにおける写実主義 第15回：とりまとめと総括 定期試験は実施しない			
テキスト 適宜指示する			
参考書・参考資料等 柿沼敏江『無調の誕生 ドミナントなき時代の音楽のゆくえ』音楽之友社、2020			

烏賀陽『Jポップとは何か 巨大化する音楽産業』岩波新書、2005

学生に対する評価

授業参加度（30%）、ミニレポート（20%）、期末レポート課題（50%）により評価する。

授業科目名：日本・民族音楽概説 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本 百合子 担当形態：単独
科 目	教科に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標：日本の伝統音楽の代表的な種目とその成立過程、音楽美のあり方や表現様式の特徴などを全般的に理解することを目標とする。			
授業の概要：日本の伝統音楽の代表的な種目と、関連するアジアの諸芸能の例について、歴史の流れに沿って概説する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：日本の伝統音楽の概要と歴史的な時代区分</p> <p>第2回：原始古代の日本音楽の様相</p> <p>第3回：雅楽の成立</p> <p>第4回：雅楽の種類と各様式</p> <p>第5回：琵琶楽の成立と発展</p> <p>第6回：能狂言の誕生と展開 ①狂言</p> <p>第7回：能狂言の誕生と展開 ②能</p> <p>第8回：三味線の伝来と三味線音楽の分化 ①歌いもの</p> <p>第9回：三味線の伝来と三味線音楽の分化 ②語りもの</p> <p>第10回：三味線音楽と舞台総合芸術 ①歌舞伎舞踊</p> <p>第11回：三味線音楽と舞台総合芸術 ②歌舞伎狂言</p> <p>第12回：三味線音楽と舞台総合芸術 ③文楽</p> <p>第13回：箏曲の発展と三曲合奏</p> <p>第14回：近現代の箏曲の展開</p> <p>第15回：近現代の日本音楽</p> <p>定期試験</p>			
テキスト：特に指定しない			
参考書・参考資料等：必要に応じて、都度紹介する。			
学生に対する評価：出席状況と受講姿勢から判定する平常点、小課題2～3回、最終課題1回の課題評点の合計点によって評価する。			

授業科目名： 中等音楽科指導法Ⅰ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山崎 浩隆／荒巻 治美 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 音楽の指導法について歴史を含め多様な指導の在り方を理解するとともに、内容および方法の検討を行うことができる。			
授業の概要 文献の講読および授業動画をもとに音楽科の指導法について検討する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：過去の音楽教育の検討1（明治期から戦前まで） 第3回：過去の音楽教育の検討2（戦後初期から現代まで） 第4回：表現指導の内容と方法（学習指導要領の検討） 第5回：表現領域の授業づくり（年間指導計画と学習指導案の検討） 第6回：鑑賞指導の内容と方法（学習指導要領の検討） 第7回：鑑賞領域の授業づくり（年間指導計画と学習指導案の検討） 第8回：模擬授業（教材の検討を中心に） 第9回：模擬授業（授業構成を中心に） 第10回：模擬授業（教具・板書・ICT機器を中心に） 第11回：表現領域の模擬授業 第12回：鑑賞領域の模擬授業 第13回：模擬授業の振り返り 第14回：優れた授業実践の動向 第15回：音楽科の課題と展望 定期試験を行わない			
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）音楽編」教育芸術社（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽偏 美術編」教育図書（2019）			

参考書・参考資料等

中学生の音楽：教育芸術社 音楽のおくりもの：教育出版

学生に対する評価

レポート、模擬授業や指導案などで行う。

授業科目名： 中等音楽科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山崎 浩隆／荒巻 治美 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 音楽教育の様々な考え方や実践方法の理解を深め、それらの知見をもとに授業づくりを行うことができる。			
授業の概要 文献の講読および授業動画をもとに具体的な音楽科の指導法について検討する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：優れた音楽科教育法の研究1（理念の確認） 第3回：優れた音楽科教育の研究2（目的の確認） 第4回：優れた音楽科教育の研究3（指導法の確認） 第5回：優れた音楽科教育の研究4（指導法の分析） 第6回：優れた音楽科教育の研究5（指導法をもとにした活動） 第7回：優れた音楽科教育の研究6（指導法をもとにした活動の振り返り） 第8回：優れた音楽科教育の研究7（前回までと異なる指導法の理念の確認） 第9回：優れた音楽科教育の研究8（指導法の確認） 第10回：授業の目標、内容、評価の検討（ICT活用おとび教材を含む） 第11回：音楽科の授業づくり1（目標、内容および評価の検討） 第12回：音楽科の授業づくり2（学習指導案の作成） 第13回：音楽科の授業づくり3（模擬授業および振り返り） 第14回：音楽科の授業づくり4（改善案の検討） 第15回：音楽科の課題と展望 定期試験を行わない			
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）音楽編」教育芸術社（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽偏 美術編」教育図書（2019）			

参考書・参考資料等

中学生の音楽：教育芸術社 音楽のおくりもの：教育出版

学生に対する評価

レポート、模擬授業の指導案等で行う。

授業科目名： 中等音楽科指導法Ⅲ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 山崎 浩隆／荒巻 治美 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 音楽教育の様々な考え方や実践方法の理解を深め、それらの知見をもとに授業づくりを行うことができる。			
授業の概要 文献の講読および授業動画をもとに具体的な音楽科の指導法について検討する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：音楽科教育の検討1（英国の理論等をもとに） 第3回：音楽科教育の検討2（英国の実践等をもとに） 第4回：音楽科教育の検討3（英国の実践の分析等をもとに） 第5回：音楽科教育の検討4（これまでの内容をもとにしたディスカッション） 第6回：音楽科教育の検討5（米国の理論等をもとに） 第7回：音楽科教育の検討6（米国の実践等をもとに） 第8回：音楽科教育の検討7（米国の実践の分析等をもとに） 第9回：音楽科教育の検討8（5回以降の内容をもとにしたディスカッション） 第10回：表現の授業づくり1（歌唱教材を中心に） 第11回：表現の授業づくり2（ICT機器利用や課題設定を中心に） 第12回：表現の授業づくり3（器楽教材を中心に） 第13回：表現の授業づくり4（技能指導を中心に） 第14回：鑑賞の授業づくり1（教材の研究を中心に） 第15回：鑑賞の授業づくり2（ICT機器利用や課題設定を中心に） 定期試験を行わない			
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）音楽編」教育芸術社（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽偏 美術編」教育図書（2019）			

参考書・参考資料等

中学生の音楽：教育芸術社 音楽のおくりもの：教育出版

学生に対する評価

レポート、模擬授業の指導案等で行う。

授業科目名： 中等音楽科指導法Ⅳ 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 必修科目 (中学校) 選択科目 (高等学校)	単位数： 2単位	担当教員名： 山崎 浩隆／荒巻 治美 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 自身で設定した指導における課題を文献によって探究し、音楽教育の様々な考え方や実践方法の理解を深め、それらの知見をもとに授業づくりを行うことができる。			
授業の概要 文献および実践資料を通して指導についての理解を深めるとともに、それをいかした授業を構想し、実践することができる。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：調査・研究のテーマ設定 第3回：調査1 (関連文献の検討等) 第4回：調査2 (先行研究の検討等) 第5回：調査3 (実践資料の検討等) 第6回：調査内容の整理 第7回：調査・研究結果の報告 第8回：調査をもとにした学習指導案の検討 第9回：修正した学習指導案の検討 第10回：模擬授業1 (歌唱活動等) 第11回：模擬授業2 (器楽活動等) 第12回：模擬授業3 (創作活動等) 第13回：模擬授業4 (鑑賞活動等) 第14回：模擬授業の総括 第15回：まとめ 定期試験を行わない			
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領 (平成29年告示)」東山書房 (2018) 文部科学省「高等学校学習指導要領 (平成30年告示)」東山書房 (2019) 文部科学省「中学校学習指導要領解説 (平成29年告示) 音楽編」教育芸術社 (2018) 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 (平成30年告示) 芸術 (音楽 美術 工芸 書道) 編 音楽編 美			

術編」教育図書（2019）

参考書・参考資料等

中学生の音楽：教育芸術社

音楽のおくりもの：教育出版

学生に対する評価

レポート、模擬授業の指導案等で行う。

授業科目名：絵画基礎 I 【共同科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松永拓己 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 絵画のデッサンと映像メディア表現の基礎技能・表現力習得する。			
授業の概要 様々なモチーフを単色で描写する。作品制作に取組、社会的制作発表を行う。			
授業計画 第1回：デッサン表現①ガイダンス 第2回：デッサン表現①（静物描写）デッサンの基礎表現を行う（形態） 第3回：デッサン表現①（静物描写）デッサンの基礎表現を行う（色彩） 第4回：デッサン表現②（構成描写）デッサンの基礎表現を複数構成で行う（形態） 第5回：デッサン表現②（構成描写）デッサンの基礎表現を複数構成で行う（色彩） 第6回：デッサン表現②（人物描写）デッサンの基礎表現を人物で行う（形態） 第7回：デッサン表現③（人物描写）デッサンの基礎表現を人物で行う（色彩） 第8回：デッサン表現③（人物描写）スケッチ基礎表現を行う（形態） 第9回：デッサン表現③（人物描写）スケッチ基礎表現を行う（色彩） 第10回：映像メディア表現①（風景描写）映像を使いスケッチを行う 第11回：映像メディア表現②（静物描写）映像を使い静物デッサンを行う 第12回：絵画制作社会活動（学外制作展示 企画創作） 第13回：絵画制作社会活動（学外制作展示 実践） 第14回：絵画制作社会活動（学外制作展示 発表会） 第15回：まとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 別途資料準備			
参考書・参考資料等 絵画技法体系 1, 2, 3（三麗社）1981年 世界美術百科 I（第一法規）1985年			
学生に対する評価 提出物・作品及びレポート（70%） 授業内容の理解・達成・制作過程（30%）			

授業科目名：絵画基礎Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松永拓己 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 絵画表現に慣れ親しみ、基礎的水彩技法・制作法を習得する。			
授業の概要 水彩画材の基礎を学び、様々な描画材に慣れ表現し、社会的発表を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：水彩画（紙）制作（技法） 第3回：水彩画（紙）制作（形態） 第4回：水彩画（紙）制作（色彩） 第5回：水彩画（キャンバス）制作（技法） 第6回：水彩画（キャンバス）制作（形態） 第7回：水彩画（キャンバス）制作（色彩） 第8回：水彩画（キャンバス）制作（空間） 第9回：水彩画（自由素材 他）制作（技法） 第10回：水彩画（自由素材 他）制作（形態） 第11回：水彩画（自由素材 他）制作（空間） 第12回：絵画制作社会活動（学外活動 企画創作） 第13回：絵画制作社会活動（学外活動 実践活動） 第14回：絵画制作社会活動（学外活動 まとめ） 第15回：発表会 定期試験は実施しない。			
テキスト 別途資料準備			
参考書・参考資料等 絵画技法体系 1, 6, 10（三麗社）1981年 世界美術百科Ⅰ（第一法規）1985年			
学生に対する評価 提出物・作品及びレポート（70%） 授業内容の理解・達成・制作過程（30%）			

授業科目名：絵画演習 I 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松永拓己
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 静物モチーフ描写、人物モデル描写を通して自己の構想的絵画表現ができる。			
授業の概要 様々な描画材を用いて、静物画、人物画による絵画制作課題に取り組む。画面作り計画を理解する。素材、色彩、バランス、プロポーションの理解を進め絵画制作を行い学外発表する。			
授業計画 第1回：画材の研究（ガイダンス 導入） 第2回：画材の研究（静物 構想画 技法） 第3回：画材の研究（静物 構想画 資料収集） 第4回：画材の研究（静物 構想画 形態） 第5回：画材の研究（静物 構想画 色彩） 第6回：画材の研究（静物 構想画 空間） 第7回：画材の研究（人物 構想画 技法） 第8回：画材の研究（人物 構想画 資料収集） 第9回：画材の研究（人物 構想画 形態） 第10回：画材の研究（人物 構想画 色彩） 第11回：画材の研究（人物 構想画 空間） 第12回：絵画制作社会貢献活動（学外活動 企画創作） 第13回：絵画制作社会貢献活動（学外活動 実践活動） 第14回：絵画制作社会貢献活動（学外活動 まとめ） 第15回：発表会 定期試験は実施しない。			
テキスト 別途資料準備			
参考書・参考資料等 絵画技法体系6（三麗社）1981年 世界美術百科I（第一法規）1985年			
学生に対する評価 提出物・作品及びレポート（70%） 授業内容の理解・達成・制作過程（30%）			

授業科目名：絵画演習Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松永拓己
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 絵画 風景画制作（テーマを設定、制作し、具象・抽象表現を理解し、自己表現を研究する）			
授業の概 風景画を制作する。自然の中で五感を生かし、具象的表現、抽象的表現について計画を立て制作・作品発表を行う。			
授業計画 第1回：絵画制作（テーマ設定・調査） 第2回：絵画制作（調査 資料収集） 第3回：絵画制作（風景画1）具象的表現（形態） 第4回：絵画制作（風景画1）具象的表現（色彩） 第5回：絵画制作（風景画1）具象的表現（空間） 第6回：絵画制作（風景画1）具象的表現（構成） 第7回：絵画制作（風景画2）抽象的表現（形態） 第8回：絵画制作（風景画2）抽象的表現（色彩） 第9回：絵画制作（風景画2）抽象的表現（空間） 第10回：絵画制作（風景画2）抽象的表現（構成） 第11回：絵画制作（風景画3）自主的表現（形態） 第12回：絵画制作（風景画3）自主的表現（色彩） 第13回：絵画制作（風景画3）自主的表現（空間） 第14回：絵画制作（風景画3）自主的表現（構成） 第15回：発表会 定期試験は実施しない。			
テキスト 別途資料準備			
参考書・参考資料等 絵画技法体系 1, 6（三麗社）1981年 世界美術百科Ⅰ（第一法規）1985年			
学生に対する評価 提出物・作品及びレポート（70％） 授業内容の理解・達成・制作過程（30％）			

授業科目名：絵画演習Ⅲ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松永拓己 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 絵画における異素材表現研究を行い、コラージュ、版等による制作及びデジタル活用による絵画制作が出来る。			
授業の概要 版を使った絵画表現と、デジタル素材（印刷を含む）活用による絵画表現の発表を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：異素材を使った絵画表現（コラージュ・版制作画）（資料収集） 第3回：異素材を使った絵画表現（コラージュ・版制作画）（下絵） 第4回：異素材を使った絵画表現（コラージュ・版制作画）（彫） 第5回：異素材を使った絵画表現（コラージュ・版制作画）（貼） 第6回：異素材を使った絵画表現（コラージュ・版制作画）（擦） 第7回：異素材を使った絵画表現（デジタル活用絵画）（資料収集） 第8回：異素材を使った絵画表現（デジタル活用絵画）（構想） 第9回：異素材を使った絵画表現（デジタル活用絵画）（形態） 第10回：異素材を使った絵画表現（デジタル活用絵画）（色彩） 第11回：異素材を使った絵画表現（デジタル活用絵画）（空間） 第12回：絵画制作社会活動（学外活動ワークショップ 企画創作） 第13回：絵画制作社会活動（学外活動ワークショップ 実践） 第14回：絵画制作社会活動（学外活動ワークショップ まとめ） 第15回：発表会 定期試験は実施しない。			
テキスト 別途資料準備			
参考書・参考資料等 絵画技法体系 1, 6, 8（三麗社）1981年 世界美術百科 I（第一法規）1985年			
学生に対する評価 提出物・作品及びレポート（70%） 授業内容の理解・達成・制作過程（30%）			

授業科目名： 彫刻基礎 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 徳安 和博／徳安 和博
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・彫刻		
授業のテーマ及び到達目標 彫刻史や作家論、技法論、によって彫刻芸術を俯瞰的に理解する。その上で作り手として知っておくべき彫刻の要素である心象性、立体性、触覚性、材料性を講義と、実際に塑造演習、彫造演習を行うことで彫刻性を意識した立体造形の在り方を理解することで、総合的に彫刻の概念を拡張する。			
授業の概要 彫刻芸術に講義・演習によって多角的にアプローチすることで、自分の表現や他人の表現を多角的に見る力を養う。彫刻の要素である心象性、立体性、触覚性、材料性を具体的な講義と演習によって理解する。彫刻を言語化するための基礎知識を学び、粘土、石膏、木材を使った演習をおこなう。知識を学び、言語化することで記録に残る彫刻作品の道筋を理解し、材料体験や技法体験を通じて、記憶に残る彫刻作品への道筋を理解する。			
授業計画 第1回：彫刻について 講義 第2回：石膏による型どり体験 講義 第3回：石膏による型どり体験 演習 第4回：彫刻の要素について 講義 第5回：塑造 演習 第6回：塑造 まとめ 第7回：塑造 触覚性について 講義 第8回：塑造 触覚性演習 第9回：塑造 触覚性演習 まとめ 第10回：彫造について 講義 第11回：木彫 演習 木取り 第12回：木彫 演習 荒彫り 第13回：木彫 演習 荒彫り 第14回：木彫 演習 仕上げ彫り 第15回：木彫 演習 着色 木彫まとめ 定期試験 作品とレポートにより評価する。			

テキスト

使用しない

参考書・参考資料等

彫刻の歴史 先史時代から現代まで 東京書籍

彫刻の美 中央公論美術出版

学生に対する評価

- ・ 講義を経て、彫刻概念の拡張ができたか。
- ・ 講義と演習を経て、彫刻性を意識した立体造形の在り方を理解できたか。

授業科目名：彫刻演習 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 徳安 和博 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・彫刻		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学校および高等学校の美術学習における立体表現の指導能力修得のために、彫刻作品としての頭像の制作の手順や技法を、実践を通して理解する。</p> <p>単にモデルの頭部と同じ形になるように模するのではなく、彫刻作品として成立するために必要な、頭像における量、面、均衡、動勢などについて理解し、作品に反映する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業2コマ180分間、毎回受講者が二人組となりお互いにモデルをしながらモデリングを進行し、1回、又は2回の授業で完成を目指す。制作にスピード感が必要。教員は塑造による頭像の制作の手順や技法を解説し、実習中の作品に造形的な観点からの指導を適宜行う。10回目以降は作品の石膏どりを行う。作品は毎回写真で記録を残し、講評の時に過去作品と比較して自分の成長を振り返る。受講者は作品の写真と、石膏どりをした「頭像」を最後に提出する。</p>			
<p>授業計画（1回の授業は90分を2コマ連続で行う）</p> <p>第1回 ポーズまたは構図について クロッキーを行い、その後心棒作りや粘土の準備をする</p> <p>第2回 頭像制作① 2人組で1作目の制作</p> <p>第3回 頭像制作② 完成 作品を3方向から写真で記録しておく</p> <p>第4回 頭像制作③ ペアを交代し2人組で2作目の制作</p> <p>第5回 頭像制作④ 2作目の完成 作品を3方向から写真で記録しておく</p> <p>第6回 頭像制作⑤ ペアを交代し2人組で3作目の制作</p> <p>第7回 頭像制作⑥ 3作目の完成 作品を3方向から写真で記録しておく</p> <p>第8回 頭像制作⑦ ペアを交代し2人組で4作目の制作</p> <p>第9回 頭像制作⑧ 4作目の完成 作品を3方向から写真で記録しておく</p> <p>第10回 石膏どりの手順について。切り金入れ</p> <p>第11回 石膏雌型の作成</p> <p>第12回 雌型からの粘土搔き出し 型を洗浄する</p> <p>第13回 雌型に離型剤を塗り、石膏雄型を作成する</p> <p>第14回 石膏雌型を壊して、雄型を取り出す。修正を行う</p> <p>第15回 作品講評（1作目から4作目の写真、実際の作品との違いを知り、美術学習指導につながる知識・技能両面での自分の成長を自覚する）</p>			

定期試験 1 作目から 4 作目の写真と石膏どりした作品提出による
テキスト 使用しない
参考書・参考資料等 彫塑 新装普及版：製作と技法の実際 岩野勇三 日貿出版社
学生に対する評価 ・自分の中にある観念的な形と、実際モデルの形の違いに気づくことができたか。 ・その上で、立体表現の特質である彫刻性を意識した作品制作ができたか。

授業科目名：デザイン 基礎 I 【共同科目】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 和田 七洋 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 デザイン（映像メディア表現を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 初歩的なCGの活用方について知る。 デザインの基礎についての理解を深め、デザイン教育の基礎的な能力を培う。			
授業の概要 CGアプリケーションの基本的な使用方法を学ぶ。 ポスター制作を通し、デザイン的な思考の基礎を学ぶ。 言語を視覚化しコミュニケーションのための媒体としてイラストレーションポスターを制作する。			
授業計画 第1回：ガイダンス CGアプリ活用法 第2回：CGアプリ 基礎1（ソフトウェア活用の基礎知識） 第3回：CGアプリ 基礎2（種類と特徴） 第4回：CGアプリ 演習1（イラストレーション試作） 第5回：CGアプリ 演習2（エフェクト効果の試作） 第6回：ガイダンスポスター制作 第7回：アイデアスケッチ制作 第8回：アイデアスケッチ講評1 第9回：ガイダンス ロゴデザイン課題 第10回：ポスター制作1（テーマ設定、キャッチコピーとサブコピーの配置検討） 第11回：ポスター制作2（グリッドシステムを用いた図柄構成と色彩計画の検討） 第12回：ファーストフィニッシュ 講評2 第13回：ポスター制作3（図柄と文字情報の全体的な再構成） 第14回：ポスター制作4（レイアウトの再確認と微修正作業） 第15回：最終講評 定期試験 なし			
テキスト 適宜資料を配布する			

参考書・参考資料等

『線の冒険 デザインの事件簿』松田 行正著

学生に対する評価

作品とその制作過程をもとに評価

授業科目名：デザイン 基礎Ⅱ 【独自科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 和田 七洋
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 デザイン基礎Ⅰで学んだ内容を基に発展したデザインの理解を深め、デザイン教育の基礎的な能力を高める。			
授業の概要 架空の商品のロゴの制作を通し、基本的な技能を習得し、デザインの基本についての理解を深めデザイン教育の基本的な能力を培うタイポグラフィーの基本的な理解を深める。 ショート動画制作を通し、映像制作の基礎を学ぶ。			
授業計画 第1回：ロゴデザイン 制作課題 第2回：アイデアスケッチ制作 第3回：アイデアスケッチ講評 第4回：ファーストフィニッシュ制作 第5回：ファーストフィニッシュ講評 第6回：セカンドフィニッシュ制作 第7回：セカンドフィニッシュ講評 第8回：ポスター制作講評 第9回：ガイダンス ショート動画制作課題 第10回：絵コンテ制作 第11回：絵コンテ講評1 第12回：撮影 第13回：撮影＋編集 第14回：編集（継続） 第15回：最終講評 定期試験 なし			
テキスト 適宜資料を配布			
参考書・参考資料等			

『線の冒険 デザインの事件簿』松田 行正著

学生に対する評価

作品および制作過程をもとに評価

授業科目名：デザイン 演習Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 和田 七洋
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 デザイン基礎Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を基に発展したデザインの理解を深め、美術科学習の教材開発能力向上として、デザイン教育の応用能力を高める。			
授業の概要 美術科学習の教材として有効とされる絵本制作を通し、デザイン的な思考の基礎を学ぶ。文字等を含み応用する。 言語を視覚化しコミュニケーションのための媒体として絵本を制作する過程で、タイポグラフィーの基本的な理解を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 絵本制作課題 第2回：絵本についての説明 制作方法 第3回：アイデアスケッチ制作 第4回：アイデアスケッチ講評 第5回：アイデアスケッチ修正 第6回：アイデアスケッチ 再講評 第7回：アイデアスケッチ 修正 第8回：スケッチをもとに絵本制作 1 第9回：絵本制作 継続 第10回：絵本制作 継続 第11回：絵本講評 ファーストフィニッシュ 第12回：絵本制作 修正 第13回：絵本制作 継続 第14回：絵本制作 継続 第15回：最終講評 定期試験 なし			
テキスト 適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

『線の冒険 デザインの事件簿』松田 行正著

学生に対する評価

作品をもとにデザイン思考の基礎理解や教材開発への取り組みを評価する。

授業科目名：デザイン 演習Ⅱ 【独自科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 廣瀬 剛 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ／実技制作を通してイメージする力や発想力の向上をはかり、生徒の発想・構想能力向上のための指導・支援へつなげる。</p> <p>到達目標／</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技制作を通してイメージする力や発想力を高めることができる。 ・与えられたテーマを柔軟な発想で表現できる感覚を養うことができる。 ・完成した作品をポートフォリオにまとめ、他者を意識したプレゼン資料が制作できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、実技制作を通してイメージする力や発想力の向上をはかる。また、学校現場では生徒作品の記録撮影が必要になるため、適切な記録方法やICT機器を使用したポートフォリオ制作方法についても習得する。映像メディア表現では、学校現場での指導を想定した映像作品の制作方法について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・課題1「身近な素材から発想力を高める」</p> <p>第2回：課題1「身近な素材から発想力を高める」制作</p> <p>第3回：ポートフォリオ制作のための「作品記録撮影」について</p> <p>第4回：課題1講評・ディスカッション</p> <p>第5回：ICT機器を使用したポートフォリオ制作のための「画像加工」について</p> <p>第6回：ICT機器を使用したポートフォリオ制作のための「文字構成」について</p> <p>第7回：ICT機器を使用したポートフォリオ制作のための「レイアウト」について</p> <p>第8回：課題1ポートフォリオ講評・ディスカッション</p> <p>第9回：課題2「身近な環境を見つめフィールドワークを通してイメージする力を高める」制作1</p> <p>第10回：課題2「身近な環境を見つめフィールドワークを通してイメージする力を高める」制作2</p> <p>第11回：課題2講評・ディスカッション</p> <p>第12回：課題2ポートフォリオ講評・ディスカッション</p> <p>第13回：課題3「学校現場での映像メディア表現を想定した作品制作」</p> <p>第14回：課題3 ICT機器を使用した課題作品鑑賞・講評・ディスカッション</p>			

第15回：課題3ポートフォリオ講評・ディスカッション

定期試験／ありません。授業での課題提出で評価します。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

適宜提示します。

学生に対する評価

提出課題50% 作品ポートフォリオ30% 取組状況20%

授業科目名：デザイン演習III 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 廣瀬 剛 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ／今日の教育の重要点である「地域との連携」を踏まえ、実技制作を通して地域の魅力の理解を深め、伝達する能力を高め、教材開発能力の向上へつなげる。</p> <p>到達目標／</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の地域特性について調査し、魅力について深く知ることができる。 ・ 地域の魅力を写真、文章、ロゴタイプ、図表などにより適切に伝達することができる。 ・ 広報物制作を行うためのICT機器を扱うことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>現在住んでいる地域の魅力を県外に向けてPRするための広報物の制作を行うことで、地域の魅力をより深く知り、広報を通じて第三者へ効果的に伝達する方法を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、課題説明</p> <p>第2回：課題制作のための素材撮影について</p> <p>第3回：グループディスカッション（1）「テーマ・地域設定」</p> <p>第4回：グループディスカッション（2）「役割分担」</p> <p>第5回：グループディスカッション（3）「ロゴ制作」</p> <p>第6回：サムネールチェック</p> <p>第7回：作品制作1「調査・素材撮影」</p> <p>第8回：作品制作2「画像加工」</p> <p>第9回：作品制作3「レイアウト1」</p> <p>第10回：中間講評、ディスカッション</p> <p>第11回：作品制作4「文字構成」</p> <p>第12回：作品制作5「素材制作」</p> <p>第13回：作品制作6「レイアウト2」</p> <p>第14回：作品制作7「印刷・製本」</p> <p>第15回：講評・ディスカッション</p>			

定期試験／ありません。授業での課題提出で評価します。
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 適宜提示します。
学生に対する評価 提出課題70% 取組状況30%

授業科目名： 工芸基礎 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：喜久山悟 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 工芸		
授業のテーマ及び到達目標： 自然素材との関わりを通して立体造形の基礎技能を養う。また、学校教材としての工芸について考察する。			
授業の概要： 制作実践が中心であるが、ここで獲得する技術、技能は個人制作の表現的力量を上げると同時に、工芸教育実践指導力を向上できる内容とする。			
授業計画 第1回：ガイダンス・・・本授業の目的、方法の説明。 第2回：今日の工芸と教材について・・・幅広い観点から工芸を見渡し、学校現場の現状を勘察し今日的工芸教材について考察していく。 第3回：素材を採集する・・・地域環境を造形活動に活かすため観察と採集を行う。 第4回：素材を整える・・・素材を用いた造形活動の下準備。 第5回：アイデアスケッチ・・・制作内容の確定。作品化のための構想。 第6回：制作を行う1・・・下地作り。ドローイング。 第7回：制作を行う2・・・ドローイング。ペインティング。 第8回：制作を行う3・・・ペインティング。コーティング。 第9回：環境を活かした造形教材開発・・・身近な空間に作り出す立体工作表現および作例について解説。 第10回：制作のためのロケーションハンティング・・・制作の舞台となる空間を選定する。 第11回：制作を行う4・・・選定された空間のための立体制作アイデアスケッチ 第12回：制作を行う5・・・木材その他の素材選びと加工 第13回：制作を行う6・・・演出を意識した表現活動。 第14回：制作を行う7・・・作品の写真撮影とデータ化 第15回：まとめ・技術技法と教材化のポイント整理・・・互いの作品を評価しつつ、教材として教育実践上の課題を確認する。			

テキスト：図画工作科、美術科教科書。クラフト作品図録。

参考書・参考資料等：学習指導要領

学生に対する評価：提出物・作品及びレポート（70%） 授業内容の理解・達成・制作過程（30%）

授業科目名： 工芸演習 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：喜久山悟/喜久 山悟 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 工芸		
授業のテーマ及び到達目標： ミュージアムショップグッズ開発をとおして立体造形の基礎能力を養う。また、美術遺産の調査、学校教材としての工芸について考察する。			
授業の概要： 制作実践が中心であるが、ここで獲得する技術、技能は個人制作のためだけに獲得するものではなく、これらを活かして工芸教育実践力を向上できるような内容とする。			
授業計画 第1回：ガイダンス・・・本授業の目的、方法の説明。 第2回：今日の工芸と教材について・・・幅広い観点から工芸を見渡し、今日の工芸を教材の視点で分析していく。 第3回：ミュージアムショップのグッズ調査・・・各地にある美術館・博物館のミュージアムショップの商品に着目する。 第4回：コンセプトづくり1・・・自身が提案するミュージアムショップのグッズ考案 第5回：コンセプトづくり2・・・内容の確定。対象となる美術(テーマ)の歴史や文化等下調べ 第6回：制作を行う・・・アイデアを具体化する素材や加工法の整理 第7回：制作を行う・・・商品としての特性を意識した造形 第8回：制作を行う・・・それぞれの基礎技法の確認 第9回：制作を行う・・・パッケージを含め構成して作品化していく 第10回：制作を行う・・・消費者の立場に立ったグッズの長所をチェックし、造形的に表明できるようにする 第11回：制作を行う・・・開発グッズの本体およびパッケージデザインを含め商品的価値を高める演出を行う 第12回：制作を行う・・・グッズ商品の魅力をプレゼンテーションする広告デザインの作成			

第13回：プレゼンテーション1・・・動画、スライド等を用いた商品プレゼンテーション

第14回：プレゼンテーション2・・・授業参加者で互いのプレゼンテーションに対し、質疑応答を通して改善点、改良点について話し合う

第15回：まとめ・技術技法と教材化のポイント・・・互いの作品を評価しつつ、教材としての実践上の課題を確認

テキスト：小学校図画工作教科書、クラフト作品集、「ミュージアムグッズ図鑑」

参考書・参考資料等：学習指導要領

学生に対する評価：提出物・作品及びレポート（70%） 授業内容の理解・達成・制作過程（30%）

授業科目名： 美術史概論 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松永 拓己、喜久山 悟 /吉住 磨子
			担当形態： クラス分け・複数/単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 美術理論・美術史 (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 1. 学生が、作品を鑑賞するための、また作品を研究するための基本となることから (図像や様式など) について理解できるようになることを目指します。 2. 美術と社会、宗教、経済、政治などが密接に結びついているということが、理解できるようになることを目指します。			
授業の概要 古今東西のさまざまな造形作品、資料を題材にして、さまざまな角度から美術史・文化史について教えます。具体的には、スライドやyou tubeを使ってさまざまな作品を見せながら授業を進めます。			
授業計画 第1回：ガイダンス：授業の概要について。履修上の注意。成績評価の方法等について 様式について (その1)：ギリシャ彫刻を例にして 第2回：様式について (その2)：近現代美術を例にして 第3回：図像について (その1)：イコノグラフィーとイコノロジー 第4回：図像について (その2)：仏教図像学とキリスト教図像学 第5回：絵画の空間について (その1)：中世絵巻、頂相、水墨画、ポンペイの壁画、西洋中世宗教画、ルネサンス絵画を例にして 第6回：絵画の空間について (その2)：近現代美術を例にして (絵画の物質化、絵画の二次元化、絵画と彫刻のボーダーレス化) 第7回：美術と経済 (芸術家とパトロン) 第8回：作品の真贋、オリジナルと複製について (その1)：古代ギリシャ・ローマの状況、職人から作家へ 第9回：作品の真贋、オリジナルと複製について (その2)：マルセル・デュシャンとベンヤミン 第10回：装飾美術と人間中心の美術：縄文土器と弥生式土器を例にして 第11回：装飾美術と人間中心の美術：ケルト美術とイスラム教美術を例にして 第12回 美術とジェンダー：美術と教育、歴史上女性の美術家が少なかったのはなぜか、現代における			

ジェンダーをテーマにした作品

第13回：庭について：日本，東洋，西洋の庭のデザイン，庭の表象

第14回：復習とまとめ（第1回から第7回の授業）

第15回：復習とまとめ（第8回から第13回の授業）

定期試験

テキスト

増補新装カラー版西洋美術史、美術出版社、2023年。増補新装カラー版日本美術史、美術出版社、2024年。

参考書・参考資料等

授業中に紹介します。

学生に対する評価

期末試験

授業科目名： 造形実践演習 【シラバス共通科目】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松永 拓己／栗山 裕至
			担当形態： クラス分け
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標 造形表現の諸領域について知識理解と技能習得を進めながら、教材開発能力を高める。			
授業の概要 造形表現の諸領域について、概説と演習を通じて理解を深めるとともに、それらの内容と教育実践とを接続しながら学修を進めることで、教材開発能力を高めていく。			
授業計画 第1回：本授業のガイダンス（松永 拓己、栗山裕至） 第2回：絵画表現について①描画材、支持体、技法について（松永 拓己、栗山 裕至） 第3回：絵画表現について②版画表現について（松永 拓己、栗山 裕至） 第4回：絵画表現について③イラストレーションについて（映像表現の内容を含む）（松永 拓己、栗山 裕至） 第5回：絵画表現について④模擬制作演習（松永 拓己、栗山 裕至） 第6回：絵画表現の授業実践について（環境設定、支援）（松永 拓己、栗山 裕至） 第7回：絵画表現の授業実践について（鑑賞学習との接続）（松永 拓己、栗山 裕至） 第8回：視覚伝達表現について①素材、技法について（松永 拓己、栗山 裕至） 第9回：視覚伝達表現について②模擬制作演習（映像表現の内容を含む）（松永 拓己、栗山 裕至） 第10回：構成表現について③模擬制作演習（立体表現）（松永 拓己、栗山 裕至） 第11回：視覚伝達表現・構成表現の授業実践について（鑑賞学習との接続）（松永 拓己、栗山 裕至） 第12回：美術学習の題材開発へ向けた調査研究①技法習得について（松永 拓己、栗山 裕至） 第13回：美術学習の題材開発へ向けた調査研究②鑑賞対象作品の選定について（松永 拓己、栗山 裕至） 第14回：美術学習の題材開発へ向けた調査研究③社会教育施設との連携について（松永 拓己、栗山 裕至） 第15回：全体のまとめ（松永 拓己、栗山 裕至） 定期試験は実施しない			
テキスト			

指定しない

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説美術編（平成29年）

高等学校学習指導要領解説美術編（平成30年）

授業内容に合わせて適宜資料を配布する

学生に対する評価

講義の小レポート、演習の取り組み、調査研究の小レポート等の総合で評価する

授業科目名： 中等美術科指導法Ⅰ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 喜久山 悟／栗山 裕至 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 美術科の授業を担当するために必要な知識、技能、態度を、獲得・育成することを目的とする。			
授業の概要 本講義では、A表現に関わる中学校美術科の授業実践を想定し、必要とされる美術科教育の基礎的な教育原理、教科の歴史、教育方法論などについて理解し、知識や技能を習得する。美術科教科書の題材を実際に体験しながら、学習指導要領の内容に沿ったA表現の授業について、指導計画を立案し短時間の模擬授業（デジタル機器やタブレット端末等のICT機器を適宜活用）を行うことで、授業方法の専門知識・技術を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス（学習指導要領についての概説） 第2回：日本の美術教育草創期と文化受容について 第3回：教科書の変遷を通して見える美術教育思潮や教育内容 第4回：創造主義の出現と美術教育 第5回：創造主義の今日的な捉え方と美術教育 第6回：発達と造形の変化について（思春期・青年期の描画表現を中心に） 第7回：美術科の教科内容の成り立ちと教育課程 第8回：美術科の指導計画について（学習指導案を中心に） 第9回：A表現「絵に表現する活動の指導」について（教材研究） 第10回：A表現「絵に表現する活動の指導」の解説（ICT活用の演示等を含む） 第11回：A表現「彫刻に表現する活動の指導」について（教材研究） 第12回：A表現「彫刻に表現する活動の指導」の解説（ICT活用の演示等を含む） 第13回：A表現「デザインや工芸に表現する活動」について（教材研究） 第14回：A表現「デザインや工芸に表現する活動」の解説（ICT活用の演示等を含む） 第15回：B鑑賞の授業実践について（事例紹介、ICT活用についての解説を含む） 定期試験は実施しない			
テキスト			

中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

中学校学習指導要領解説 美術編（平成29年6月、文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 芸術編（平成30年7月、文部科学省）

参考書・参考資料等

中学校美術科教科書各種、高等学校美術教科書各種、授業時に適宜資料配布

学生に対する評価

講義レポート（50%）、教材研究関連レポート（50%）